

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	NEW CONSTRUCTION OF OS	階数	地上5F
建設地	京都府相楽郡精華町光台1丁目6番	構造	S造
用途地域	準工業地域、商業地域 防火地域	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2022年12月9日
敷地面積	16,389 m ²	作成者	株式会社竹中工務店藤原浩士
建築面積	8,830 m ²	確認日	2022年12月9日
延床面積	43,136 m ²	確認者	株式会社竹中工務店藤原浩士



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 100%

② 建築物の取組み 78%

③ 上記+②以外の 78%

④ 上記+ 78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>建物の規模上圧迫感のある様相となりがちであるが、外壁色を温かみのあるアースカラーとし、静かで落ち着いた周辺環境に対して圧迫感、不安感を与えないよう配慮した。また敷地周辺には緑地帯とセキュリティフェンスの登攀型のツタ植物を設け、緑により近隣環境の醸成に寄与する。</p>		<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>内装材はF★★★★を採用している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>オフィスの天井高2.8mとし、すべての執務者が屋外の情報を得られるよう窓が設置されていて開閉も可能となっている。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>敷地周囲は中高木低木地被類で緑化を行い低木は、一定株ごとに花期が異なる樹種を配列することにより季節により変化のある設えとしている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BPI_m=0.59 BEI_m=0.73</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型便器を採用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率=78%</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される